— 京都市ごみ減量推進会議 —

こごみ日和

～みんなでごみゼロ～

No.41 2009.9

少年時代―佐々木蔵之介さんのちょっぴりエコな生活

蔵元の朝は早い。杜氏さんがボイラーを炊き始めると家全体が揺れる。否応なしに目を覚ますと、香ばしい香りと共に家中が蒸気まみれ。それが子供の頃から続けられた日々変わることのない朝の日課だったのです。

本号ではテレビドラマなどで大活躍の俳優“佐々木蔵之介さん”を迎えインタビューさせていただきました。京都の蔵元に生まれ育ち、幼少時代から見つめてきた大人たちと暮らす楽しさ、モノを大切にする生き方、地域と共に暮らす大切さ、自然と共に暮らした日々を聞くことが出来ました。

◆よろしくお願いします。まず、蔵之介さんの少年時代のお話を聞かせて下さい。

「思い出としては、学校へ持っていく弁当が他の友だちと違っていたことでしょうか。弁当箱を開けるのにまわりの友だちにとても気づかいましたね。というのも、おかずの卵が酒臭いのなんのって。（笑）
勿論、それだけでなく毎日の食卓も同じです。干ものもシャケも酒の香り。これには苦労しましたけど。」

◆それでは、粕汁なんて食卓に出たのでしょうね。

「それはもう当然。昼食も粕汁、夕食も粕汁、わが家の粕は香りもよく、とても味わいがありました。横には奈良漬けが並べられ、まさに私の少年時代は大きい声で言えませんが酒びたりの日々でした。（笑）」

◆危ない発言ですネ。（笑）

「何しろ、酒風呂に入っていましたから。というのは、蔵人さん達が酒樽を洗うのが日課なのですが、その洗った水がもったいなくてその水でお風呂を沸かして入るのです。」

◆もったいない精神でしょうか。

「こんな話があります。酒屋の家では道具を大切にします。手入れを怠らない、それが命なのです。先程の酒樽を洗ったあとその水を庭に流すのですが、それが土壌に栄養を与え、うちの家にある柿の木を育てるのです。その柿の甘いのなんのって、子供のときの本当にうれしい思い出でしたね。」

◆地域とのお付き合いも楽しかったのでは？

「そうです。先程の酒粕なんかは、皆さんが言われるところの産業廃棄物なのですが、捨てるなんて考えたことはないです。わが家では、ご近所に差し上げていました。だから、その日は、近所中の夕食はみんな粕汁だった時もあるのでは。（笑）
そう考えただけで楽しいですよね。みんなで地域ぐるみで、そして家族ぐるみで粕汁を添えた幸福な食卓が広がる。」
「また、新酒が出来上がった時には”ふるまい酒”もおこないました。みんなで歓んでいただき、何げない会話を楽しむ。小さな私がそんな事を覚えているのは本当に大人が楽しそうに話している姿がきっと目に焼きついているからだと思います。」

◆佐々木蔵之介さんは水とのお付き合いも深そうですね。

「そうです、わが家では井戸を掘って地下水を大切に使っていましたから、当時は水道の水というものを飲んだことがありませんでした。
これらの地下水は冬あたたかく、夏はまわりの空気を冷やしてくれる効果があるのですよ。それに水は使わないと涸れていく。生命としての水に守られて生きているということ、今この時代にその大切さを実感しています。

（次号に続く）

【佐々木蔵之介さんには次号でもちょっぴりエコな子供時代のお話を聞かせて頂きます。】 取材:大橋正明

特　集

「ごみ業から農業へ」

京都市ごみ減量推進会議会長　**高月　紘**

長らく「ごみ」に関する研究を続けてきましたが、最近、農業にも関心を持ち、農作業で汗を流しています。もちろん、ごみの研究は私のライフワークですのでこれからも続けますが、何故ここに来て農業か?と疑問に思われるかも知れませんので、少しそのわけをお話ししておきたいと思います。

「ごみ」問題に取り組んでいると、ごみを通して色々なことを学ぶことになります。ごみ問題は私たちの生活のスタイルに深く関わった問題であり、資源やエネルギーの問題、ひいては温暖化問題にも直結する環境問題の1つです。環境問題を解決する方向性について、今さかんに言われるのが「持続可能な社会をめざすべきである」というビジョンです。では、具体的に持続可能な社会とはどんな社会かと考えれば、少なくとも人間が地球上で生き続けられることが必要な条件です。さらに、突き詰めれば人間が生き続けられるためには、最低限食べるものが必要となります。この食料はどこから得られるかといえば当然ながら農業と言うことになります。やや3段論法的ですが、持続可能な社会では、まず農業が基本的に重要な役割を果たすと考えたわけです。そこで、「農業」について少し勉強してみようと農業系の大学である「石川県立大学」に籍を置くことにしました。しかし、これまで全く農業について知りませんでしたので、まずは体験学習ということで大学の農場で慣れない畑や田んぼの作業を始めています。ごみについてもそうでしたが、私の研究スタイルはまず現場での体験や調査をしながら考えることを大切にしていますので、現在、研究室の学生らと一緒に「にわか農業」の難しさと楽しさを味わっているところです。

作者註:今一度、水田の価値を見直しましょう!

農業に勤しむ高月会長

さて、そんなわけで、農作業に勤しんでいるのですが、大学の先生という立場で言えば農作業だけしていれば済むわけではありません。何らかの研究的業績が求められますので、なにか農業と環境を結びつける研究をということで、食品廃棄物の問題や有機物循環の研究をやっています。いわゆる「食」やバイオマスに関するもので、それなりに社会的に関心のあるテーマです。また、農業と環境の関係で言えば、これまでは農業はあくまでも食料を生産することだけが重視されていましたが、最近では農業の多面的機能、すなわち国土保全や生態系の維持機能について注目され始めています。考えてみれば、人間は長い間をかけて農業を通じて自然と共生を図ってきたわけであり、その中で地域の風俗、文化、食習慣がはぐくまれてきたのです。

いま、日本の農業は疲弊していますが、食糧自給率をこのままにはできないと思います。必ずや、農業を見直す時代が来ると思います。その時に、農業と環境問題を総合的に検討することが非常に重要だと考えています。

高月　紘会長のプロフィール

★京都市ごみ減量推進会議会長、京(みやこ)エコロジーセンター館長を務める。

★石川県立大学教授、京都大学名誉教授であり、廃棄物問題を研究するかたわら、環境漫画家ハイムーンとして環境問題について訴える一コマ漫画を描く。

★作品の一コマ漫画は環境教育、パネル展示等で広く使用されている。

★出版物:漫画「ゴミック」第1集～第6集(日報)、絵本「絵コロジー」(合同出版)、単行本「ごみ問題とライフスタイル―こんな暮らしは続かない」(日本評論社)など。

シリーズ

「みんなで考える」

＜繊維リサイクルの最先端を訪ねて＞

京都工芸繊維大学
繊維リサイクル技術研究センター長　木村　照夫さん

学校服専門店　（有）村田堂　長屋　博久さん

— いま、リサイクルされている繊維は、排出量全体のわずか12%ほどです —

木村先生と長屋氏

京都工芸繊維大学大学院で先端ファイブロ科学部門の教鞭を取る木村先生が、繊維リサイクルを取り巻く現状の厳しさを語ります。昨今、資源のリサイクルが叫ばれ、国や自治体がその回収率を重視する中、最もリサイクルが進んでいない資源がこの“繊維”です。

繊維と一口に言っても、綿や羊毛などの天然繊維と石油由来の合成繊維とに大きく分けられ、それらの配合率によって性質も様々です。綿100%だと思っていた洋服でも、よく見ればポリエステルやポリウレタンが混合されていることもしばしば。生地に光沢や伸縮性を与えることができる合成繊維は、現代の服飾文化に欠かせない存在となっています。

もともとは福井大学工学部で伝熱工学を研究していた木村先生。地元の織物会社から「余った糸くずを有効利用できないか?」という相談を持ちかけられ、合成繊維（ポリエステルなど）からプラスティック製品を試作したことが、繊維リサイクル研究の世界に入るきっかけとなったと言います。

しかし、本格的に研究を進める中で、様々な課題に直面します。繊維リサイクルにおいて、異なる種類の繊維が混在していてはリサイクルには向きません。単一の素材で汚れがないこと、繊維の形状が揃っていること、そして一定量の安定供給が可能であることなどの条件が生じます。繊維工場で排出される屑繊維は、比較的この条件を満たしていますが、家庭から排出される不要な繊維（古着など）は素材もまちまちで量も限られているため、リサイクルルートが確立されていません。かつては、東南アジアなどへの輸出も盛んでしたが、中国製衣料の普及によって行き詰まりを見せ、一部が中古衣料としてリサイクルショップなどで扱われる程度に留まっています。

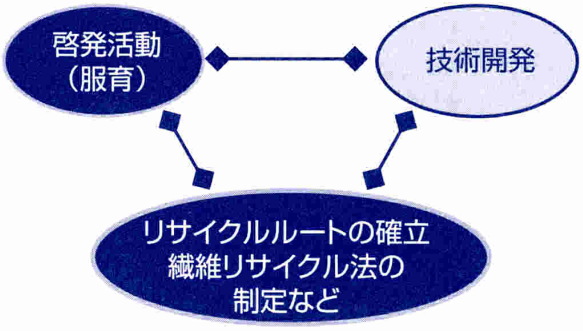
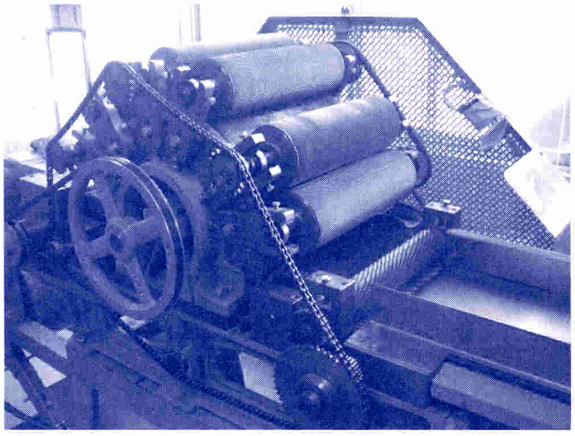
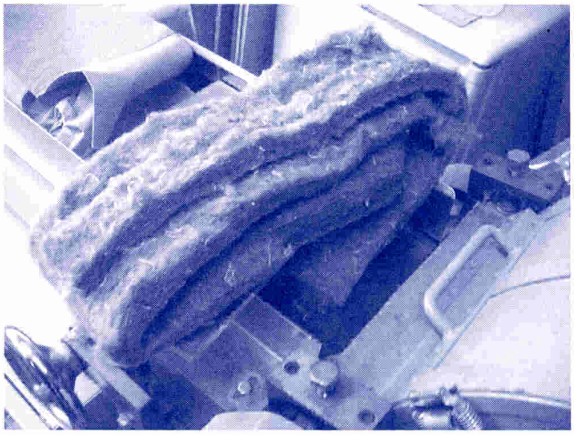


図1　・繊維リサイクル技術研究センターでは学内外の企業・研究所・大学の強固な連携による国際的研究の実践を通じて「繊維リサイクル技術」の国際的研究拠点を目指している。



カード機　この機械で布状の繊維を綿状にすることができます。



この綿状の繊維を圧縮加工することで、硬度の異なる擬木を創り出すことができます。

シリーズ「みんなで考える」

こんな現状をアイディアと技術で改善していこうと、8年前に立ち上げたのが「繊維リサイクル技術研究会」。木村先生や長屋さんをはじめ、繊維の未来を考える様々な立場のメンバーによって活動が続けられています。具体的には、繊維の回収分科会、先端技術分科会、LCA*1解析分科会などに分かれており、それぞれのテーマを改善するための行動提案を行っています。木村先生の研究テーマでもある、あらゆる繊維を有効利用した新素材の開発は、あっと驚くユニークなものばかり。古着などの廃棄繊維をフェルト状にし、圧縮することで、擬木（ぎぼく）と呼ばれる優れた素材を開発し、その耐久性を活かして手漕ぎの船を作ったこともあるほどです。その他、製材の際に出る北山杉の杉皮を天然繊維と絡ませて圧縮した杉皮ボードや、しょうがの茎葉の部分を砕き、綿繊維と混ぜ合わせた糸で織り上げた不織布など、これまでの“繊維”の常識を一新する、繊維素材の可能性を提案し続けています。

熊本県宇城市と産学連携で開発をした、しょうが繊維を織り込んだエコバッグ

そして、この会のもう一つの大きな目標は、繊維リサイクル法制定に向けた起案作りです。繊維の用途に合わせたリサイクルルートを確立するためにはどうすればよいか、また複合繊維を簡単に判別するための表示方法や、リサイクルを前提とした衣料品のあり方など、研究者・生産者、そして消費者が、有限である「繊維資源」と今後どのように向き合っていくのかという議論が行われています。物質的な豊かさの象徴でもある服飾文化に対しても、このままでは廃棄繊維の排出削減は望めません。それぞれの立場で問題意識を高め、120%の目標設定に向けて試行錯誤をすることで、はじめて打開策が見えてくるのではないでしょうか。

最後に、「服育活動」という言葉をご紹介します。生活に欠かせない衣料と、上手に長く付き合う方法を、次世代に伝えていく活動をこう呼んでいます。学生服は日本の文化であり、その学生服を通して服育活動を続ける長屋さん。安価な衣料が身の回りに増えましたが、本当に必要なものを選び、繊維資源を無駄にする経済の仕組みに一石を投じる未来の消費者の目を養うことが、私たち大人に託された最も大切なことであると教えて頂きました。

※1　LCA…Life Cycle Assessment(ライフサイクルアセスメント)とは、製品の資源採取から素材生産、加工、流通、使用、廃棄・リサイクルまでに係る環境負荷を数値化し、総合的に定量評価を行うこと。

取材日:平成21年4月30日　　取材:松村　香代子

＜インフォメーション＞

○ **繊維リサイクル技術研究センターのこれからの取組**

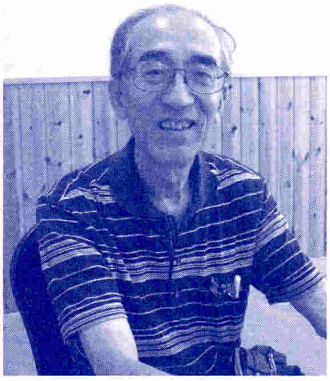
『“繊維リサイクルモデル都市京都”構築に関する啓発活動（繊維廃材を素材とする楽器教材作成の試み）』
繊維廃材から木琴を作成する試みです。将来的には環境学習に使用できるキットを作成し,出前授業やワークショップに活用したいと考えています。
（※この活動は、京都市ごみ減量推進会議の平成21年度市民公募型パートナーシップ事業に採択されました。）

○ **繊維リサイクルや服育について分かりやすくまとめられた漫画『その服、もう捨てちゃうの?』**
（編:とことん服とつきあう委員会）**も好評です。**

お問合せ：京都工芸繊維大学先端ファイブロ科学部門、木村照夫、
電話:075-724-7863、E-mail:tkimura@kit.ac.jp
京都工芸繊維大学HP: **http://www.kit.ac.jp/index.html**

京のこの人にインタビュー

梅逕(ばいけい)安心安全ネットワークごみ減量推進会議
会長 **加藤　純一**さん


加藤純一会長

真夏の太陽の下、グラウンドからは野球部の練習声が聞こえてきます。

ここは、元・梅逕中学校。3年前に下京区の5中学が、京都市立下京中学校に統合され、その後も、下京中学校の部活動の場として、また地域活動の拠点として、多くの人が行き交う場所です。

今回お訪ねした梅逕安心安全ネットワークも、この元・梅逕中学校に活動拠点を置き、菜の花・ひまわりプロジェクトへの参加や、地域菜園での生ごみコンポストの利用、雨水の活用など、地域の環境意識を高める活動を行っています。

梅逕安心安全ネットワークは、地域の防犯・消防・少年補導の各委員会が相談し、地域に呼びかけて立ち上げた組織で、自分たちの地域の安心・安全を自分たちの手で確立するために活動を始めました。その後、地域の美化などにも取り組み、平成19年6月からは地域ごみ減量推進会議としての活動も開始。資源の拠点回収や地元の行事にリユース食器を導入するなど、子どもたちにも分かりやすい環境活動を積極的に行っています。地元の夏祭にはマイ箸持参を呼掛けたり、防災訓練では各家庭の冷蔵庫にある食料で炊き出しをするなど、毎回アイディアに富んだ企画を提案し、地域住民からの反響も上々です。

地域菜園ですくすくと育ったスイカ

ゴーヤのカーテンは、涼しさと美味しい恵みを分けてくれます

ネットワークの皆さんが手塩に掛けて育てている地域菜園には、キュウリやスイカ、トウモロコシなどの夏野菜がずらり。体育館の東側には、ゴーヤと朝顔の緑のカーテンも掛けられ、食べごろになった可愛らしいゴーヤが顔を覗かせていました。サツマイモも青々とした葉を地面いっぱいに広げ、秋の収穫が楽しみです。肥料も水やりも、自分たちで工夫をしながら育てた自然の恵みは、心も身体も元気にしてくれます。こども達と収穫し、独り暮らしの高齢者に届けたり、収穫祭で地域の皆さんに振舞ったりすることで、住民同士のコミュニケーションが深まり、地域の元気に繋がります。

梅逕安心安全ネットワークの目標は、まさに地域を住みやすく、魅力的な生活環境にすること。そのためにメンバーが中心となって、この地域ならではの取組を今後も推進していきます。幼児から高齢者が協力し、楽しみながら地域のことを考える、そんなメンバーの皆さんの姿勢が、確実に梅逕地域を動かし、更なるユニークな活動を生み出す原動力となっています。

取材日:平成21年7月23日　　取材:松村　香代子

梅逕安心安全ネットワークの皆さん（左から、加藤会長、田中さん、西井さん、中村さん）と京都学生祭典実行委員会のお二方

梅逕安心安全ネットごみ減量推進会議

- ◆発足：平成19年6月
- ◆使用済みてんぷら油の回収：毎月第1水曜日
- ◆コミニュティ回収：毎月第1日曜日

会報誌の新しいタイトルが決定しました！

前号の「ごみを減らそう　No.40」で、リニューアルした会報誌につける新しいタイトルの公募を行ったところ、合計66個のタイトル案が集まりました！

そして、8月末に選考会を開き、**「こごみ日和～みんなでごみゼロ～」**が新しいタイトルとして選ばれました。

“こごみ日和”の“こごみ”とは、京都市の家庭ごみ有料指定袋にも描かれているキャラクターで、京都市ごみ減量推進会議会長の高月紘氏によって2003年に描かれました。ごみ袋をぎゅっと結んだ形がモチーフで、ごみの減量を願って、小さいごみの“小ごみ”と名づけられました。

また、みんなでごみの出ない社会をつくっていこうという前向きな気持ちをこめて、“～みんなでごみゼロ～”というサブタイトルを加えさせていただきました。

大賞（1名）には、「こごみ日和」を応募して下さった**野村　悦子**さんが、
佳作（2名）には、**佐伯　通子**さん、**橘　弓子**さんが選ばれました。
賞品として、一澤信三郎帆布よりトートバッグをお送りします。

＜いただいたご感想・ご意見を一部ご紹介いたします。＞

○「安いから欲しいからなど、ついいろいろ買ってしまうことが多いですが、リサイクルにはエネルギーがいりますし、よく考えて行動しないと、と思いました。」

○「私たちはこれまで目先の効率、便利さを求め過ぎて、大切なものをいっぱい失おうとしています。そして心までささくれだっています。身の回りで今できること、しなければならないことを見極め、気付けば実行していくことを心がけなければならないと思います。」

○「市民が取り組めること、また容器代、包装代、ごみの処理代など掲載していただきたいと思います。金銭にかかわると身が引き締まるのではないでしょうか？」

たくさんのご応募、誠にありがとうございました。お送りいただいた貴重なご意見やご感想については、今後の誌面作りに活かしていきたいと思っております。

新しいタイトル「こごみ日和　～みんなでごみゼロ～」となった会報誌を、今後も引き続きご愛読いただきますよう、よろしくお願いします。

NEWS

平成21年

★7月の出来事

- 3日（金）・4日（土）　出町七夕夜店におけるごみの分別回収、エコ商店街事業取組紹介
- 7日（火）　買い物袋持参キャンペーン（コープかどの四条店）
- 12日（日）　市役所前フリーマ
- 21日（火）　第4回環境教育（京極小学校）
- 26日（日）　左京区民ふれあいまつりごみ減量啓発ブース出展
- 29日（水）　第1回見学会「GSユアサコーポレーション」
- 31日（金）　平成20年度市民公募型パートナーシップ事業報告会、理事会

★8月の出来事

- 5日（水）　こどもワークショップ（NHK京都）
- 5～10日/13～18日　びっくり!エコ100選（髙島屋新宿店/髙島屋京都店）にてブース出展
- 21日（金）こどもワークショップ（醍醐 中山児童館）

★9月の出来事

- 4日（金）　地域ごみ減全体会議
- 6日（日）　市役所前フリーマ
- 20日（日）　市役所前フリーマ
- 3Rリーダー育成・活用プロジェクト開始

★10月の予定

- 2日（金）　常任理事会
- 5日（月）～　第5回　エコスタンプ事業（出町商店街）
- 11日（日）　市役所前フリーマ
- 買い物でエコキャンペーン

京都市ごみ減量推進会議会報誌　ごみを減らそう！ No.41

〒612-0031　京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター活動支援室内
TEL：075-647-3444／FAX：075-641-2971
E-mail：gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL：http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html

ゴミゲン・ネット　検索　で検索出来ます

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民団体、事業者、行政により１９９６年１１月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動をする会員を募っています。

詳細は、事務局へ問い合わせください。TEL：075-647-3444

企画編集：京都市ごみ減量推進会議　普及啓発実行委員会
（会報誌・ホームページ小委員会）

古紙を含む再生紙に大豆インクで印刷しています。　PRINTED WITH SOYINK